

平成29年版

消防年報



那智勝浦町消防本部

まえがき

本消防年報は、那智勝浦町の消防現勢及び平成 28 年度中の消防現況を紹介するとともに、将来の参考に資することを目的として編集したものであります。

本町消防行政に対する理解を深めていただき、一層の御指導と御協力をお願い申し上げます。

平成 29 年 4 月

那智勝浦町消防本部



消防吏員服制基準（昭和 42 年消防庁告示第 1 号）に規定する

消防職員の制服に取り付ける那智勝浦町を表徴するバッジ

目 次

まえがき

那智勝浦町概要	1
郷土のあゆみ	2
那智勝浦町消防の沿革	3～14
管内案内図	15

総 務 編

消防予算と消防職員の概要	16～17
一般会計予算と消防予算	18
消防組織図	19
歴代消防長、消防署長	20
消防本部の事務分掌、消防署の事務分掌	21～22
消防職員の勤務時間表、特殊勤務手当	23
消防職員教養実施状況	24
消防職員資格取得状況	25
消防職員数の推移	26
消防拠点施設等一覧	27
主力機械配置表、主力機械の経過年数	28
主力機械配置状況	29
主力機械諸元表	30～32

火 災 編

火災概要	33
火災概況及び前年度との比較	34
過去5年間月別火災発生状況	35
平成28年度火災発生状況	36
平成28年度月別火災発生状況	37
地区別火災発生状況	38

予防・危険物編

予防・危険物の概要	39
防火対象物	40
管内防火対象物の現況及び平成28年度立入検査状況	41
平成28年度月別建築確認同意事務取扱状況	41
消防用設備等設置状況、各種届受付件数及び検査済証交付件数	42
危険物 対象物別貯蔵・取扱状況、製造所等倍数状況	43
平成28年度における防火対象物定期点検報告制度の状況	44
危険物関係申請及び届出受理状況	44
5年間の危険物施設数と平成28年度の立入検査実施状況	44
消防法第9条の3及び火災予防条例関係届出施設と立入検査実施状況	45
独居老人訪問指導	45
火薬類取締法関係 火薬類火薬庫・販売店状況、火薬類関係申請及び届出受理状況	46
高圧ガス保安法関係 高圧ガス製造所・販売所・貯蔵所状況	46
高圧ガス関係申請及び届出受理状況	46
液化石油ガスの保安の確保及び取引の適正化に関する法律関係	46
液化石油ガス販売事業所状況	46

警 防 編

警防業務の概要	47 ~ 48
消防用資器材保有状況	49 ~ 53
携帯電話等からの119番通報受信状況	54
消防相互応援協定、その他の協定	55
消防水利、主な消防水利の設置状況	56
那智山地区自然水貯水型消防水利施設	57 ~ 58
気象警報・注意報・情報、平成28年度気温・湿度グラフ	59
過去5年間の月別降雨量・月別降雨日数	60

救急・救助編

救急救助業務の概要	61
救急出場状況一覧表	62
過去5年間の救急出場件数・救急搬送人員	63
傷病程度別搬送割合	64
事故種別医療機関別搬送状況	65
診療科目別医療機関搬送状況、搬送医療機関別搬送割合	66
現場到着所要時間別出場状況、収容所要時間別搬送状況	67
救急隊の行った応急処置件数	68 ~ 69
特定行為実施状況	69
転送にかかる収容所要時間別搬送状況、医療情報提供件数調	70
曜日別搬送状況、宿泊所からの要請による搬送状況	71
事故種別転送回数別搬送人員調、傷病程度別転送回数別搬送人員調	72
診療科目別医療機関案内状況、ヘリコプターによる搬送状況	73
階級別救急資格取得状況調、年齢別救急資格取得状況調	74
救助統計、過去5年間の救助件数	75
他機関との合同訓練実施状況	76
救助活動の範囲、事故種別の区分	77

消 防 団 編

消防団の概要	78
歴代消防団長、副団長	79
消防団員数、階級別年齢表	80
消防団員階級別在職年数表、消防団員報酬	81
消防団員の職業構成、消防団員の就業形態、消防団員の退職・新任状況	82
消防団員教養実施状況、消防団員数の推移	83

那智勝浦町概要

1 地 勢

本町は、和歌山県の南東部に位置し、東は黒潮洗う熊野灘に臨み太地町と接し、西は串本町及び古座川町、北は新宮市に接している。内陸には山が迫り、山地と丘陵地を合わせた面積が総面積の90%を占めている。

紀伊山地の南に連なる那智連峰からは那智川、太田川の両河川が熊野灘に注ぎ、海岸部では見事なリアス式海岸を展開している。温暖多雨な本町は、風光明媚な景観と山の緑、海の青に恵まれたところである。

2 面 積		183.31	km ²
3 広 袤	東西	19.80	km
	南北	19.20	km



熊野古道大門坂

郷土のあゆみ

本町は、先史より人々が生活していた証として、縄文・弥生時代の遺跡や土器など、太古からのメッセージが数多く出土している。名瀑那智の滝を抱く那智山は、日本の代表的な聖地として歴史적으로よく知られ、熊野三山の一つとして、修験道や観音信仰と結びついて発展し、「蟻の熊野詣」と言われるほど参詣路（熊野古道）はにぎわった。

平安時代の頃は、権門勢家や社家土豪など荘園の私営もみられ、やがて地方豪族の所領となり、江戸時代には新宮城主水野氏の治下に置かれた。明治4年の廃藩置県で和歌山県の所管となり、明治22年の市町村制の施行により本町域には、勝浦村、那智村、宇久井村、色川村、上太田村、下太田村、下里村の7か村が生まれた。

その後、勝浦村、那智村、下里村が町制を施行し、上太田村と下太田村が合併して太田村となり、昭和30年には勝浦町、那智町、宇久井村、色川村の4町村を合併して那智勝浦町が誕生した。

さらに昭和35年、下里町、太田村を編入して現在に至っている。以来、自然を保護し、天与の景観を守りつつ、「豊かで、明るく、住みよい町」の実現へ向けて歩み続けている。

町章



町花 つつじ



町木 かし



那智勝浦町消防の沿革

明治 39 年		私設天満消防組創設、75 名
明治 40 年	4 月	那智消防組創設
明治 41 年	4 月	勝浦消防組創設、65 名
明治 42 年		私設井関消防組創設、50 名 (この時期各町村は、消防組を組織する。)
昭和 4 年		下里消防組に消防タービン式ポンプ 1 台配置
昭和 7 年		勝浦消防組に消防自動車(米国製フォード V18 型四輪車)1 台配置
昭和 8 年		勝浦消防組に消防艇「白龍」(約 3t、ポンプ 1 基、エンジン 1 基)1 隻配置
昭和 9 年	9 月	町の議決を経て、私設那智消防組を公設消防組に改編
昭和 14 年	4 月	勅令第 20 号、警防団令に基づき各町村は、消防組を警防団に改編
昭和 17 年		那智町警防団に消防自動車 1 台配置
昭和 19 年	12 月	7 日、東南海地震発生(M8.0、当町における死者 34 人、行方不明者 4 人、流出家屋 218 棟)
昭和 21 年	12 月	21 日、南海道地震発生(M8.1、新宮市では倒壊家屋続出)
昭和 22 年	10 月	消防団令に基づき、各町村の警防団を消防団に改編
昭和 24 年	7 月	勝浦町消防団所属第 2 号消防艇「白龍」進水
昭和 28 年		下里町消防団に小型動力ポンプ 1 台配置
昭和 30 年	4 月	4 か町村合併に伴い、那智勝浦町消防団発足(4 個分団、256 名) 旧第 1 分団(勝浦)に小型動力ポンプ 1 台配置
昭和 33 年	7 月	消防相互応援協定締結(那智勝浦町・新宮市・古座町・古座川町・太地町・本宮町・熊野川町・北山村・下里町・太田村)
昭和 35 年	1 月	下里町・太田村の編入により、那智勝浦町消防団は 6 個分団、366 名となる。
	4 月	6 個分団発足となり、実員数は 360 名となる。
	10 月	旧第 2 分団(那智)に消防ポンプ自動車(いすゞ TX631 改型)1 台配置
昭和 36 年		旧第 2 分団(那智)に小型動力ポンプ(トハツ V30A 型、B-3 級)1 台配置
昭和 38 年		旧第 3 分団(宇久井)に小型動力ポンプ(トハツ V30A 型、B-3 級)1 台配置
	10 月	旧第 5 分団(下里)に小型動力ポンプ(トハツ V30A 型、B-3 級)1 台配置
	12 月	旧第 1 分団(勝浦)に消防ポンプ自動車(いすゞ TXG10 改

		型)1台配置
昭和39年	2月	旧第6分団(太田)に小型動力ポンプ(トヨタV30AS型、B-3級)1台配置
	10月	旧第5分団(下里-浦神東)に小型動力ポンプ(トヨタV30AS型、B-3級)1台配置
昭和41年		旧第1分団(勝浦)に小型動力ポンプ(トヨタVM型、B-3級)1台配置
昭和42年		旧第1分団(勝浦)に小型動力ポンプ(トヨタV30A型、B-3級)1台配置
	11月	旧第2分団(那智)に消防ポンプ自動車(トヨタFJ45改型)1台配置
昭和43年	10月	15日、第1回全国消防操法大会出場(於:駒沢川北公園、那智勝浦町消防団)
	12月	消防団本部庁舎(旧第1分団-勝浦屯所併設)竣工(鉄筋コンクリート2階建、延272㎡)
昭和44年	10月	消防団員の定員数を380名に増員 旧第1分団(勝浦)に化学消防ポンプ自動車(いすゞTXG10改型、A-2級)1台配置
	11月	16日、第1回和歌山県消防操法大会出場(於:白浜町)小型ポンプの部優勝(那智勝浦町消防団)
昭和45年	11月	旧第3分団(宇久井)に消防ポンプ自動車(トヨタFJ55V改型、A-2級)1台配置
	12月	旧第3分団(宇久井)に消防車庫竣工(鉄筋コンクリート造、平屋建、延36㎡) 旧第1分団(勝浦)に第3号消防艇「白龍」(総トン数14.51t 総事業費12,110千円、1隻配置)
昭和46年	3月	消防団本部に勝浦ロータリークラブ寄贈の広報車(トヨタRT68V改型)1台配置
	8月	旧第1分団(勝浦)に消防ポンプ自動車(トヨタFJ55V型、A-2級)1台配置
	11月	旧第5分団(下里)に消防ポンプ自動車(トヨタFJ55V型、A-2級)1台配置
昭和47年	7月	旧第6分団(太田)に消防ポンプ自動車(トヨタFJ55V型、A-2級)1台配置
	8月	旧第4分団(色川)に小型動力ポンプ積載車(トヨタRN20改型)1台配置
昭和48年	7月	役場厚生課に農協共済寄贈の救急自動車(ニッサンVPC110改型)1台配置
	10月	旧第4分団(色川)に消防車庫竣工(鉄筋コンクリート造、平屋建、延24㎡)

昭和49年	4月	自治省告示第80号により、消防本部・消防署の設置指定される。
昭和50年	4月	那智勝浦町消防本部・消防署発足、消防団本部庁舎にて業務開始(消防職員の条例定数20名) 消防職員20名 消防ポンプ自動車(A-2級)1台 救急自動車(農協共済寄贈)1台 小型動力ポンプ(C-1級)1台
	9月	旧第2分団(那智)に消防ポンプ自動車(いすゞSBR320改型、A-2級)1台配置
	10月	消防本部・消防署庁舎竣工(鉄筋コンクリート造、2階建、延690.65㎡) 消防署に日本船舶振興会寄贈の救急自動車(トヨタRH11V型)1台配置
昭和51年	3月	消防職員の条例定数30名に増員
	5月	旧第4分団(色川)に小型動力ポンプ(トヨタV38A型、B-3級)1台配置
	7月	旧第5分団(下里-浦神東)に消防器具庫竣工(コンクリートブロック造、平屋建、延23.38㎡)
	8月	旧第2分団(那智-天満)に消防車庫竣工(鉄骨造、平屋建、延45.47㎡)
昭和52年	3月	消防署に日本損害保険協会寄贈の消防ポンプ自動車(ニッサンFH60型、A-1級)1台配置
	9月	消防署に水槽付消防ポンプ自動車(いすゞSCR320改型、A-2級)1台配置
	10月	紀南消防相互応援協定締結、加盟5消防本部(那智勝浦町・新宮市・串本町・古座川消防組合・熊野市)
	11月	旧第2分団(那智-朝日)に小型動力ポンプ(トヨタV38A型、B-3級)1台配置
昭和53年	12月	消防署に30m級(32m)梯子付消防ポンプ自動車(日野TC343改型、A-1級、総事業費57,700千円)1台配置
昭和54年	10月	本宮町消防本部発足に伴い、昭和52年10月1日締結の紀南消防相互応援協定に加盟、6消防本部となる(那智勝浦町・新宮市・串本町・古座川消防組合・熊野市・本宮町)。
	12月	旧第1分団(勝浦)に消防ポンプ自動車(いすゞKSCR320改型、A-2級)1台配置
昭和55年	7月	用務員1名増員
	11月	旧第2分団(那智-朝日)に消防ポンプ自動車(いすゞKTL D44改型、B-1級)1台配置

	12月	消防署に小型動力ポンプ(トハツV15A型、C-1級)1台配置
昭和56年	3月	旧第2分団(那智-天満728の1)に消防屯所竣工(鉄骨造、2階建、延105.60㎡)
	7月	旧第3分団(宇久井)及び旧第5分団(下里-天満)に小型動力ポンプ(トハツV50C型、B-3級)各1台配置
昭和57年	3月	消防署に日本損害保険協会寄贈の救急自動車(トヨタJ-RH45VB型)1台配置 表示公表制度施行による第1回消防適マーク交付(交付率31%)
	5月	消防本部に勝浦ローリークラブ寄贈の消防広報車(トヨタL-TX67U改型)1台配置
	7月	旧第2分団(那智市野々)に小型動力ポンプ(トハツV50C型、B-3級)1台配置
	9月	救急医療情報システム業務開始
	10月	旧第5分団(下里)の下里青年研修所敷地内に消防器具倉庫竣工(軽量鉄骨造、平屋建、延5.5㎡)
昭和58年	3月	県化学消火薬剤備蓄タワ竣工(消防本部敷地内、内容量20.337㎡)
	4月	消防団を8個分団に改編
昭和59年	4月	1日、第3代消防長 岩淵芳一 就任、第2代消防署長 田原道夫 就任
	7月	消防本部及び消防署の機構改編
	8月	第3分団(二河)・第7分団(高芝)・第8分団(小匠)に小型動力ポンプ(トハツV50C型、B-3級)各1台配置
	12月	第5分団(宇久井)に消防ポンプ自動車(いすゞP-NKR57E2N改型、A-2級)1台配置
昭和60年	2月	8日、日本消防協会特別表彰「まとい」を受賞(那智勝浦町消防団)
	7月	1日、勝浦幼稚園幼年消防クラブ 結成(総員117名)
	8月	第6分団(色川)に小型動力ポンプ(トハツV50D型、B-3級)1台配置 第2分団(勝浦)に消防ポンプ自動車(いすゞP-NKR57E2N改型、A-2級)1台配置
昭和61年	8月	3日、第11回和歌山県消防ポンプ操法大会出場(於:那智勝浦町)小型ポンプの部、第3位入賞(那智勝浦町消防団) 第4分団(井関)に日本消防協会寄贈の小型動力ポンプ付積載車(トヨタL-YH80改型、トハツV60BS型、B-2級)1台配置
	11月	第6分団(色川)に小型動力ポンプ積載車(M-YY61改型)1台配置 第7分団(浦神東)に小型動力ポンプ(トハツV50C型、B-3

		級)1台配置
昭和62年	1月	5日～3月30日の間、梯子車オ-パ-ホ-ル実施
	3月	消防署に救急車(トヨタL-YH71VB型、1,998cc)1台配置
	4月	10日、(財)日本造船技術センターに消防艇の設計委託
	10月	28日、消防艇「はくりゅう」起工(勝浦船渠株式会社)
	12月	21日、第4号消防艇「はくりゅう」(総t数19t、109,000千円)進水
昭和63年	1月	9日、第4号消防艇「はくりゅう」竣工
	2月	消防署に油圧救助器具1式配置(濱地利三朗氏寄贈)
	3月	消防署に司令広報車1台配置(トヨタN-LX76V改型、2,400cc)(濱地利三朗氏寄贈) 那智勝浦町防災行政無線システム完成運用開始
	8月	7日、第12回和歌山県消防ポンプ操法大会出場(於:高野町)ポンプ車の部、優勝(那智勝浦町消防団) 第6分団(色川)に小型動力ポンプ(トヨタV50D型、B-3級)1台配置
	9月	6日、局地的集中豪雨により那智川が氾濫、川関地区を中心に床上、床下浸水被害続出
	10月	消防職員の条例定数32名に増員 第2分団(勝浦)に小型動力ポンプ(ユ-ットP303B型、C-1級)1台配置 第4分団(天満)に小型動力ポンプ(トヨタV20B型、C-1級)1台配置 第8分団(太田)に小型動力ポンプ(トヨタV50D型、B-3級)1台配置
	11月	第7分団(下里)に消防ポンプ自動車(いすゞP-NKR58E2N改型、A-2級)1台配置
平成元年	2月	消防本部通信指令室に全国消防共通波及び防災相互通信波専用基地局を整備
平成2年	8月	消防署に非常電源設備設置
	1月	第1分団(勝浦)に水槽付消防ポンプ自動車(いすゞP-FRR12AV改型、A-2級)1台配置
	2月	第3分団(二河)に軽4輪4WD式小型動力ポンプ積載車(スバルM-KT6改型)1台配置
	3月	第3代消防長 岩淵芳一 退任
	4月	1日、第4代消防長(心得)兼消防署長 田原道夫 就任
	7月	9日、第4代消防長兼消防署長 田原道夫 就任
	8月	1日、和歌山県防災行政無線システム本運用開始
	9月	19日夜半、大型台風19号白浜町に上陸、本町に多大な被害をもたらす。

	10月	女性消防団員採用(22名)
	11月	第7分団(浦神東)に軽4輪4WD式小型動力ポンプ積載車(スバルV-KS4改型)1台配置 20日、女性消防団員入団式挙行(於:町体育文化会館)
	12月	第8分団(太田南大居)に消防ポンプ自動車(いすゞU-NK S58GR型、A-2級)1台配置
平成3年	2月	8日、勝浦幼稚園幼年消防クラブ、(財)日本防火協会から優良幼年消防クラブ表彰受賞
	4月	消防署交替制勤務者の変則三部制実施 救急救命士法施行(救急隊員の行う応急処置の範囲拡大)
	8月	1日、第3代消防署長 住野晃久 就任
	11月	第7分団(下里天満)に軽4輪4WD式小型動力ポンプ積載車(スバルV-KS4改型)1台配置
	12月	消防署にCD-型、A-2級、4WD式、消防ポンプ自動車(いすゞU-NKS58GR改型)1台配置
	平成4年	3月
8月		2日、第14回和歌山県消防ポンプ操法大会出場(於:有田市)小型ポンプの部優勝(那智勝浦町消防団)
9月		第8分団(浦神)に軽4輪4WD式小型動力ポンプ積載車(スバルV-KS4改型)1台配置
10月		14日、第13回全国消防操法大会出場(於:横浜市)小型ポンプの部入賞、優良賞受賞(那智勝浦町消防団)
12月		色川コミュニティ消防センター竣工(2階建、延53.73㎡) 第4分団(天満)にCD-型、A-2級、消防ポンプ自動車(いすゞU-FRR32DB型)1台配置
平成5年	1月	5日~3月31日の間、梯子車オハ-ホール実施(2回目)
	4月	消防職員の週40時間勤務体制実施に伴い、消防署交替制勤務者の変則三部制が完全三部制となる。
	5月	消防署に救急車(いすゞT-WFR12FVH改型)1台配置(日本消防協会寄贈)
	7月	紀南消防相互応援協定に3消防本部が新規加盟、(近隣9消防本部となる。)田辺市・大辺路消防組合・白浜町・串本町・古座川消防組合・那智勝浦町・新宮市・本宮町・熊野市
	10月	消防署にA型、A-2級、水槽付き消防ポンプ自動車(いすゞU-FRR32DBV改型)1台配置
	12月	第4分団(井関)に軽4輪4WD式小型動力ポンプ積載車(スバルV-KS4改型)1台配置

平成 6 年	3 月	天満コミュニティ消防センター竣工(平屋建、延 38.99 m ²)
	11 月	消防署に軽 4 輪 4WD 式小型動力ポンプ、動力噴霧機積載車(スバルスバルチャージャー)1 台配置
	12 月	第 3 分団(須崎)に CD- 型、A-2 級、消防ポンプ自動車(いすゞU-NKR66GN 改型)小型動力ポンプ(トヨタV-46A 型)各 1 台配置
平成 7 年	1 月	兵庫県南部地震災害に緊急消防援助隊派遣、活動地神戸市須磨区及び長田区、第一次派遣隊(4 名)1 月 18 日～1 月 21 日(4 日間)第二次派遣隊(4 名)1 月 21 日～1 月 23 日(3 日間)出動車両、水槽付消防ポンプ自動車 1 台、主な活動内容は消火活動及び人命救助活動
	3 月	消防団(第 1 分団～第 8 分団)車両に受令機 9 機設置
	8 月	消防団(第 1 分団～第 8 分団)車両に受令機 7 機設置
	9 月	3 日、町総合防災訓練(木戸浦・杉浦島所有地)
	10 月	消防職員の条例定数 40 名に増員
	12 月	第 1 分団(勝浦)に CD- 型、A-2 級、消防ポンプ自動車(いすゞKC-NKR71GN 改型)1 台配置
平成 8 年	3 月	第 3 分団(二河)に車庫、資機材備蓄倉庫設置(木造平屋建 24.09 m ²) 消防署資機材倉庫建設(木造平屋建 20.16 m ²)
	4 月	救急救命士受験資格取得研修(平成 7 年 10 月～平成 8 年 3 月)及び当該国家試験合格 消防本部、消防署の機構改革(本部・3 課 7 係、消防署・3 班 9 係)
	8 月	聴覚障害者緊急通報用ファクシミリ運用開始
	10 月	消防団本部に可搬消防ポンプ付軽積載車 1 台配置(日本消防協会寄贈)
平成 9 年	2 月	消防署に A-2 級、 型化学消防ポンプ自動車(いすゞKC-FSR33G2V 改型)1 台配置
	3 月	無線中継基地局(しょうぼうみょうほう)妙法山に設置 第 4 代消防長 田原道夫 退任
	4 月	第 5 代消防長 森本桂司 就任
	6 月	消防団司令広報車 1 台配置
	11 月	消防署前面土地を購入し、梯子車等の訓練用地を確保(371.23 m ²)
平成 10 年	2 月	消防署に司令広報車 1 台配置(トヨタ KD-KZN 型、2,980cc) (全日本消防人共済会寄贈)
	3 月	第 6 分団(色川)に軽 4 輪 4WD 式小型動力ポンプ積載車(スバルV-KS4 改型)1 台配置
	4 月	救急救命士受験資格取得研修(平成 9 年 10 月～平成 10

		年 3 月)及び当該国家試験合格(2 人目) 消防団無線機 52 機配備運用開始(消防団波)
	6 月	携帯電話からの 119 通報、県下 4 フロクに分けて運用開始、当消防本部は田辺市消防本部を代表とする紀南フロクに属する。
	7 月	第 17 回和歌山県消防ポンプ操法大会出場(於:上富田町) 小型ポンプの部優勝(第 3 分団)
	10 月	救急救命士受験資格取得研修(平成 10 年 4 月~9 月)及び当該国家試験合格(3 人目) 勝浦幼稚園幼年消防クラブ、(財)日本防火協会から優良幼年消防クラブ表彰受賞
	11 月	消防署に CD- 型、A-1 級、4WD、消防ポンプ自動車(いすゞ KC-NKS71GR 型)1 台配置(日本損害保険協会寄贈)
平成 11 年	3 月	消防署に高規格救急自動車(トヨタ CB-VCH38S 型、4WD、3,370cc)1 台配置 那智勝浦町コミュニティ消防センター竣工(鉄骨造 2 階建、延 553.02 m ²)
	10 月	救急救命士受験資格取得研修(平成 11 年 4 月~9 月)及び当該国家試験合格(4 人目) 消防艇「はくりゅう」主機関・高速エンジン 2 基オーバーホール実施(10 月 25 日~11 月 30 日)
平成 12 年	1 月	梯子車オーバーホール実施(1 月 17 日~3 月 30 日)(3 回目)
	4 月	消防吏員服制規定の改正
	6 月	第 23 回東牟婁郡消防大会・第 18 回東牟婁郡消防操法大会が本町木戸浦グラウンドにて開催される。
	10 月	救急救命士受験資格取得研修(平成 12 年 4 月~9 月)及び当該国家試験合格(5 人目) 15 日、町総合防災訓練実施(那智漁港)
平成 13 年	1 月	21 世紀最初の消防出初式挙行(消防艇「はくりゅう」に県防災ヘリコプター「きしゅう」も参加し、文字どおり陸・海・空の放水訓練を実施する。)
	3 月	那智山地区自然水貯水型消防水利施設が完成し、当該地区の水利充足率が向上する。(平成 9 年度からの 4 か年継続事業)
	8 月	21 日、台風 11 号襲来により太田川氾濫、人的被害は免れるものの、床上浸水 145 世帯 312 人、床下浸水 111 世帯 262 人、被害総額 779,694 千円の被害が生じた。
	12 月	那智漁港ヘリポート完成
平成 14 年	3 月	救急救命士受験資格取得研修(平成 13 年 10 月~平成 14 年 3 月)及び当該国家試験合格(6 人目)

		第3代消防署長 住野晃久 退任
	4月	第4代消防署長 東正通 就任 消防吏員服制規定の改正によりアホ°ロキヤッ°、活動服及び盛夏服貸与
平成15年	1月	県ト°クア-リ運航開始(基地病院 和歌山県立医科大学附属病院)
	3月	高野小森川ト°レの非常通報装置等の通報等に関する協定の締結
	4月	1日、那智勝浦町消防本部潜水隊発足、那智勝浦町消防署に配置
平成16年	3月	第5代消防長 森本桂司 退任
	4月	第6代消防長 楠本實 就任
	7月	第20回和歌山県消防ホ°ソ°操法大会出場(於・橋本市) 小型ホ°ソ°の部(第4分団)、ホ°ソ°車の部(第1分団)ともに優勝、当日、雷雨により一時中断され、後半の部が8月1日和歌山市に於いて開催
	11月	第19回全国消防操法大会出場(於・横浜市国際総合競技場) 小型ホ°ソ°の部 入賞・敢闘賞受賞(那智勝浦町消防団)
	12月	昭和53年12月配置の梯子付消防ホ°ソ°自動車廃車
平成17年	3月	消防署に2台目の高規格救急自動車配置(ト°タ TC-VCH3 8S型、4WD、3,370cc)
	4月	救急救命士受験資格取得研修(平成16年10月～平成17年3月)及び当該国家試験合格(7人目)
	10月	第17回全国女性消防操法大会出場(於・横浜市)
	12月	1日、下里コミュニティ消防セタ- 竣工(鉄骨造2階建、延97.90平方セ)
平成18年	3月	23日、携帯119直接受信システム運用開始
	4月	1日、消防本部・消防署の機構改編
	7月	第21回和歌山県消防ホ°ソ°操法大会出場(於・御坊市)ホ°ソ°車の部(第7分団)3位入賞
平成19年	3月	本部に司令広報車配置(日本消防協会寄贈)、昭和63年配備、司令広報車廃車 第6代消防長 楠本實 退任
	4月	第7代消防長 東正通 就任 第5代消防署長 小脇邦雄 就任 救急救命士受験資格取得研修(平成18年9月～平成19年3月)及び当該国家試験合格(8人目)
	8月	30日、第4分団井関車庫 竣工(鉄骨平屋建、延24.92平方セ)

	10月	16日、和歌山県消防協会会長に消防団長 永田宏 就任
	11月	第2分団(勝浦)にCD- 型、A-2級、消防ポンプ自動車(いすゞBKG-NLS85AN型)、小型動力ポンプ(トハツV20E型、C-1級)各1台配置 第5分団(宇久井)にCD- 型、A-2級、消防ポンプ自動車(いすゞBKG-NLS85AN型)を1台配置
平成20年	4月	1日、勝浦認定こども園幼年消防クラブ 結成
平成21年	4月	消防署に救助工作車 型(三菱U-FK618GZW改型)置配(愛知県西春日井広域事務組合消防本部寄贈) 救急救命士受験資格取得研修(平成20年9月～平成21年3月)及び当該国家試験合格(9人目)
	9月	第6分団(色川)に小型動力ポンプ(トハツVC52BS型、B-3級)配置
平成22年	3月	消防署に高規格救急自動車(トヨタCBF-TRH226S型、4WD、2,690cc)配置
	9月	3日、消防団第4分団に小型動力ポンプ付積載車(いすゞBKG-NHS85A型、4WD、2,990cc)、小型動力ポンプ(シブウラSF756AZ型、B-2級)各1台を総務省消防庁より借受29日、消防団第3分団に小型動力ポンプ(トハツVF53AS型、B-3級)1台配置 同日、消防団第7分団に小型動力ポンプ(トハツVF53AS型、B-3級)2台配置
	10月	救急救命士受験資格取得研修(平成22年4月～10月)
平成23年	1月	消防団第6分団に小型動力ポンプ付き積載車(いすゞBKG-NHS85A型、4WD、2,990cc)、小型動力ポンプ(トハツVF53AS、B-3級)配置
	3月	東日本大震災発生に伴い、緊急消防援助隊派遣、派遣地は宮城県石巻市及び女川町第一次隊3月12日～17日(6日間)、第二次隊3月15日～20日(6日間)、出勤車両、化学車1台、主な活動内容は救助活動 第7代消防長 東正通 退任
	4月	第8代消防長 小脇邦雄 就任 第6代消防署長 中嶋秀和 就任 救急救命士受験資格取得研修(平成22年4月～10月)に係る当該国家試験合格(10人目)
	9月	4日、台風12号による災害が発生(死者28人、行方不明者1人、全壊103棟、大規模半壊105棟、半壊800棟、一部破損440棟)
	11月	消防署に気象観測装置設置
	12月	消防署に小型動力ポンプ(トハツV20E型、C-1級)1台配置

		第7分団(浦神)に小型動力ポンプ付き軽積載車(ダハツ EBD-S211P 型)、小型動力ポンプ (トハツ VC52BS 型、B-3 級) 各 1 台配置 消防団災害対策用資器材(フェンソー)7 機配置
平成24年	2月	第7分団(下里)に CD-1 型、A-2 級、消防ポンプ自動車(日野 SKG-XZU640M 型)、小型動力ポンプ (トハツ V25AS 型、B-3 級)、小型動力ポンプ (元ツット P455DAN 型、B-3 級) 各 1 台配置 湯川地区 甫子浦に防災倉庫設置
	3月	消防署に CD-1 型、A-2 級、消防ポンプ自動車(日野 SKG-XZU640M 型)1 台配置 消防団災害対策用資器材(発電機等)防災倉庫に配置
	9月	救急救命士受験資格取得研修(平成24年9月～平成25年3月)
	11月	消防署に後方支援車(トヨタ CBF-TRH226K 型)1 台配置
	12月	第1分団(勝浦)に CD-1 型、A-2 級、水槽付(900ℓ)消防ポンプ自動車(日野 TKG-XZU685M 型)1 台配置 第8分団(南大居)に CD-1 型、A-2 級、消防ポンプ自動車(日野 TKG-XZU685M 型)、小型動力ポンプ (トハツ V25AS 型、B-3 級) 各 1 台配置
	2月	第7分団(下里)に小型動力ポンプ付き軽積載車(ダハツ EBD-S211P 型) 1 台配置
平成25年	3月	第8代消防長 小脇邦雄 退任
	4月	第9代消防長 中嶋秀和 就任 第7代消防署長 塩崎文二 就任 救急救命士受験資格取得研修(平成24年9月～平成25年3月)に係る当該国家試験合格(11人目)
	12月	消防署に軽積載車(三菱 GBD-U62THNSE7 型)1 台配置
平成26年	2月	第3分団(天満)と第4分団(天満)に CD-1 型、A-2 級、消防ポンプ自動車(いすゞエルフ TDG-NMS85AN 型)各 1 台配置 第3分団(二河)に小型動力ポンプ付き軽積載車(ダハツ EBD-S211P)、小型動力ポンプ (トハツ VF53AS 型、B-3 級) 各 1 台配置
	3月	第4分団(市野々)に小型動力ポンプ付き軽積載車(双キ EBD-DA64V、658cc)、小型動力ポンプ (元ツット Fi8000AS 型、B-2 級) 各 1 台を総務省消防庁より借受 朝日地区 消防本部庁舎裏に防災倉庫設置 第9代消防長 中嶋秀和 退任
	4月	第10代消防長 塩崎文二 就任 第8代消防署長 江崎光洋 就任

	7月	消防署にボートトレーラー（ワックス社製、BOAT 14FW-GW）1台配備
	9月	救急救命士受験資格取得研修（平成26年9月～平成27年3月）
平成27年	2月	消防署に高規格救急自動車（トヨタ CBF-TRH226S 型、4WD、2,693cc）配置
	3月	救急救命士受験資格取得研修（平成26年9月～平成27年3月）に係る当該国家試験合格（12人目） 第10代消防長 塩崎文二 退任
	4月	第11代消防長 江崎光洋 就任 第9代消防署長 峯幸生 就任
平成28年	3月	消防救急デジタル無線、消防救急指令装置運用開始 第11代消防長 江崎光洋 退任
	4月	第12代消防長 峯幸生 就任 第10代消防署長 阪本幸男 就任
	7月	第26回和歌山県消防ポンプ操法大会出場（於・和歌山市）小型ポンプの部（第8分団）準優勝
	12月	消防署に水槽付き消防ポンプ自動車（日野 SDG-GX7JGAA 型、4WD、6,403 cc）配置
平成29年	3月	第12代消防長 峯幸生 退任
	4月	第13代消防長 阪本幸男 就任 第11代消防署長 湯川辰也 就任

管内案内図



平成29年4月1日現在	
面積	183.31km ²
人口	15,859人
男	7,362人
女	8,497人
世帯	8,031世帯

	消防本部・消防署
	消防団本部
	消防分団屯所

町人口に外国人登録者人（平成29年4月1日現在）を含めています。